

## 据付工事説明書（電気工事編）

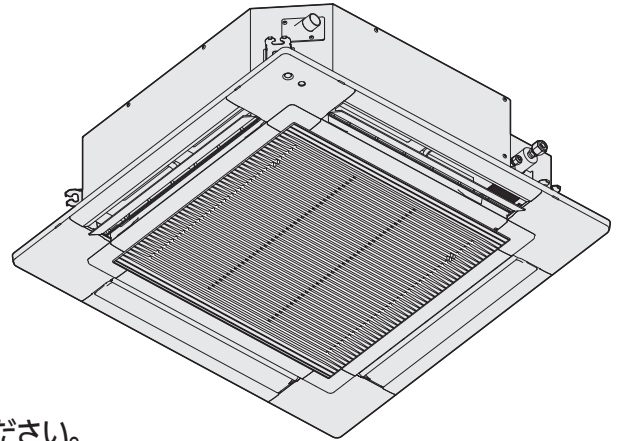
ガスヒートポンプエアコン

4方向天井カセット形  
(S-UT1シリーズ)

冷媒R410A使用

室内ユニット品番

S-G28UT1	S-G71UT1	S-G140UT1
S-G36UT1	S-G80UT1	S-G160UT1
S-G45UT1	S-G90UT1	
S-G56UT1	S-G112UT1	



据付工事説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に施工してください。  
特に「安全上のご注意」（1～2ページ）は、施工前に必ずお読みください。

据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに「取扱説明書」にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。また、「据付工事説明書」は、「取扱説明書」や「保証書」とともに、お客様で保管いただくように依頼してください。

## 安全上のご注意

必ずお守りください

人へ危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



**警告**

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



**注意**

「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。



してはいけない内容（禁止事項）です。



実行しなければならない内容（強制事項）です。

## 警告



■ 室外ユニットは、ベランダの手すり近くに設置しない  
(お客様が上に登り、手すりを越えるなどして落下のおそれ)

■ エアコンの設置や移設時、冷凍サイクル（配管）内に、  
指定冷媒（R410A）以外の空気などを混入させない  
(空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、  
破裂、けがなどの原因)

■ 室外ユニット排気ドレン管と室内ユニットドレン管は  
共用しない  
(排気ガスの室内流入による中毒や熱交換器などの腐食の原因)

■ 電源配線をバンドなどで束ねて収納しない  
(発熱、火災の原因)

■ 配線は途中接続しない  
(接触不良や絶縁不良、許容電流オーバーなどにより、  
感電や火災の原因)

■ 指定の冷媒（R410A）以外は、絶対に使用しない  
(故障や破裂、爆発、発熱、火災などの原因)

■ ドレン配管を排水溝に直接入れない  
(有毒ガスが室内に流入し、中毒などの原因)



■ 据付工事は、お買い上げの販売店や専門業者に依頼し、  
工事には必ず指定の部品を使って確実に行う  
(ユニットの落下や水漏れ、感電や火災の原因)

■ 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、  
端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように  
確実に固定する  
(故障や発熱、火災の原因)

# 安全上のご注意 (つづき)

## 警告



- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締める  
(締めすぎると、長期経過後フレアナットが割れ、冷媒漏れの原因)
- 付属品および別売品は当社指定の部品を使用する  
(指定の部品を使用しないと、ユニットの落下、水漏れ、感電、火災等の原因)
- 据付作業中に冷媒が漏れたときは換気する  
据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する  
(冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因)
- 配管やフレアナット、工具は冷媒R410A専用のものを使用する (R22用では、機器の故障のほか、冷凍サイクルの破裂など重大事故の原因)  
※使用しているHFC系冷媒 (R410A) は、従来の冷媒 (R22) に比べ圧力が約1.6倍高くなります。
- 電気工事 (アース工事を含む) は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」およびこの「据付工事説明書」に従って施工する (感電、火災のおそれ)
- 電源は、必ず専用回路を使用する (感電、火災のおそれ)
- 作業時は必ず運転を停止し、漏電しゃ断器を切る。  
(感電、火災、けがの原因)
- 漏電しゃ断器 (高調波対応品、全極開閉機能付) を取り付ける  
(故障や漏電時に感電、火災の原因)
- 台風などの強風・地震などに備え所定の工事を行う  
(転倒などにより、けがの原因)
- 据え付けは、重量に十分耐えられる所に確実にを行う  
(ユニットの落下による、けがの原因)
- 据付作業では圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取り付ける  
(空気などを吸引すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、けがなどの原因)
- 移設や修理時の冷媒回収は、冷媒回収機で行う  
(室外ユニットへの冷媒回収は、破裂、けがなどの原因)
- 小部屋へ据え付ける場合は万一冷媒が漏れても限界濃度を超えない対策を行う  
(冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因)
- 配線をはさまないように、フタは元どおり確実に取り付ける (感電、火災の原因)



- アース工事 (D種接地工事) を行う  
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話などのアース線に接続しない (感電の原因)  
アース線は、ベランダの手すりにとらない (感電の原因)

## 注意



- 室外ユニットの吸込口やアルミフィンにさわらない  
(けがの原因)
- 可燃性ガスの漏れるおそれのある場所へ設置しない  
(万一ガスが漏れてユニットの周囲にたまると、発火の原因)
- 接続部などから漏れた冷媒には直接さわらない  
(凍傷の原因)



- 冷媒配管の断熱は、この「据付工事説明書」に従って確実に断熱する  
(正しく断熱されていないと、水漏れややけどの原因)
- ドレン配管は、「据付工事説明書」に従って確実に排水するよう配管し、結露が生じないように断熱する  
(配管工事に不備があると水漏れし、家財等を濡らす原因)

■ 据付工事説明書に記載されていない方法や各説明書に記載されていない本体及び付属品への追加工、指定の部品を使用しない方法で据え付けされたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。

また、その据え付けが原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

■ 試運転は、室外ユニットの各「据付工事説明書」も参照して行ってください。

■ ワイヤードリモコン (CZ-10RT3/10RT3A) をご使用の場合、<8. ワイヤードリモコン CZ-10RT3/10RT3A で設定する場合>も参照して行ってください。

■ ワイヤレスリモコンをご使用の場合は、ワイヤレスリモコンの「据付 (電気) 工事説明書」も合わせてご確認ください。

■ 試運転はお客様に立ち会いをお願いして行ってください。そして「取扱説明書」の内容を説明した上で、実際に操作していただく。

# 1. 電気配線工事

「安全上のご注意」の内容をご確認ください。

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」、「内線規程 JEAC8001（最新のもの）」および各「据付工事説明書」に従って施工してください。また、事前に各電力会社の指導に従ってください。
- 電源は必ず専用回路を使用してください。
- 必ずアース工事（D種接地工事）を行ってください。（アースが不完全な場合は、感電の原因になることがあります。）アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。
- 漏電しゃ断器は必ず取り付けてください。漏電しゃ断器が地絡保護専用の場合には、漏電しゃ断器と直列に配線しゃ断器、または手元開閉器（開閉器+B種ヒューズ）を取り付けてください。
- 電源配線および室内外操作線・リモコン配線は、ユニットに付属している“コード固定具”で固定し、冷媒配管やバルブなどに触れないようにしてください。
- 配線は誤配線のないように接続してください。（誤配線するとこわれます。）
- 電源線（単相200V等）とリモコン配線および室内外操作線は、同一ケーブルで配線したり配線同士を近づけたりしないでください。
- リモコン配線および室内外操作線は電源配線と違いのわかる信号線を使用してください。
- ユニットの電源コード、室内外操作線はテレビ、ラジオ、ステレオ、インターホン、パソコン、ワープロ、電話などの本体およびアンテナ線や信号線、電源コードなどから3m以上離してください。ノイズで影響を受ける場合があります。
- 親・子リモコンの親をコントロールスイッチで設定したとき、機種によって使用できないボタンがある可能性があります。設定前に確認してください。

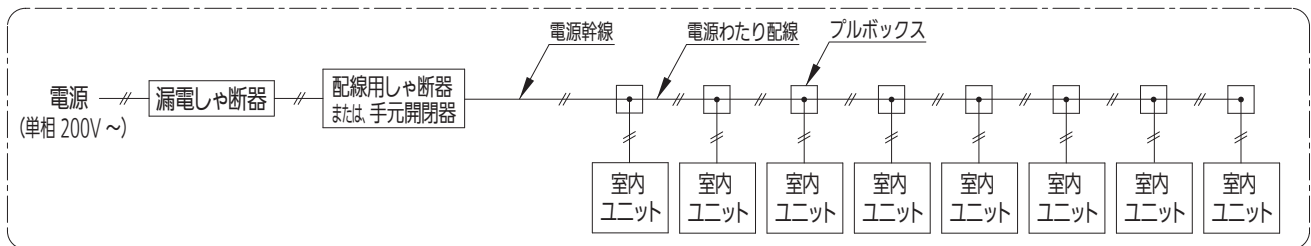
## ■ 室内ユニット/電源端子板容量

室内電源端子板容量	端子ねじ	電線最大太さ
20A	M4	3.5mm <sup>2</sup>

## ■ 電源配線

600Vビニル電線を使用基準とする。（現地調達）

- 200V電源には、2mm<sup>2</sup>未満の配線は使用できません。〈内線規程による〉
- 漏電しゃ断器が地絡保護専用の場合には、漏電しゃ断器と直列に配線しゃ断器、または手元開閉器（開閉器+B種ヒューズ）が必要になります。
- 室内ユニットの幹線の太さと、わたり線の太さは、すべて同じ太さにしてください。
- 電源配線の太さが3.5mm<sup>2</sup>を超える場合は、室内ユニットごとにプルボックスを使用してください。
- 電源が入っていない室内ユニットがあると他の室内ユニットのリモコンに警報を表示しますので、室内ユニット電源は室外ユニット単位で1か所からとるようにしてください。



## ■ 室内外操作線（通信線）

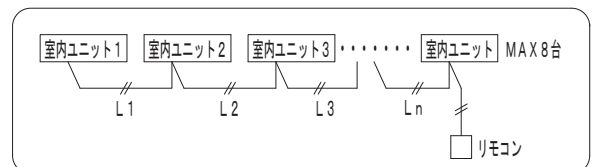
室内外操作線（通信線）	配線太さ： 0.5mm <sup>2</sup> ～2mm <sup>2</sup> （総延長 1000m まで）
室外親子間操作線	配線太さ： 0.5mm <sup>2</sup> ～2mm <sup>2</sup> （総延長 300m まで）

## ■ リモコン配線（ワイヤード）

- 総配線長 MAX 500m（グループ内にワイヤレスリモコンがある場合は、400mまで）
- 室内ユニット渡り総配線長は 200mまで。（L1+L2+L3+・・・Ln=MAX 200m）

リモコン配線 配線太さ： 0.5mm<sup>2</sup>～1.25mm<sup>2</sup>

- 別売のリモコンに付属している説明書を参照してください。
- リモコン配線は確実にリモコンと室内ユニットのリモコン配線用端子板と接続してください。
- リモコンおよびリモコン配線は、ノイズを受けないよう設置してください。



**警告**

- アース工事を行う（感電の原因）
- 漏電しゃ断器（高周波対応品、全極開閉機能付）を取り付ける（故障や、漏電時に感電、火災の原因）

# 1. 電気配線工事 (つづき)

## ■ 室内配線容量

### ● 室内ユニット個別電源時

\* 電線最小太さの ( ) 内数値はその最大こう長 (m) を表します。

項目	形式	4方向室内ユニット (個別)									
		28形	36形	45形	56形	71形	80形	90形	112形	140形	160形
スイッチ容量 [A]		30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
ヒューズ容量 [A]		15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
漏電しゃ断器	容量 [A]	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
	漏れ電流 [mA]	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
	動作時間 [s]	0.1以下	0.1以下	0.1以下	0.1以下	0.1以下	0.1以下	0.1以下	0.1以下	0.1以下	0.1以下
電源配線 (配管) (電圧降下基準 2%)	電線最小太さ	2mm <sup>2</sup> (197)	2mm <sup>2</sup> (197)	2mm <sup>2</sup> (197)	2mm <sup>2</sup> (180)	2mm <sup>2</sup> (180)	2mm <sup>2</sup> (180)	2mm <sup>2</sup> (131)	2mm <sup>2</sup> (131)	2mm <sup>2</sup> (117)	2mm <sup>2</sup> (104)
	アース線太さ	2mm <sup>2</sup>	2mm <sup>2</sup>	2mm <sup>2</sup>	2mm <sup>2</sup>	2mm <sup>2</sup>	2mm <sup>2</sup>	2mm <sup>2</sup>	2mm <sup>2</sup>	2mm <sup>2</sup>	2mm <sup>2</sup>
リモコン配線太さ		0.5mm <sup>2</sup> ~ 1.25mm <sup>2</sup> (総延長 500m迄)									

### ● 室内ユニットが複数台時のスイッチ、ヒューズ、漏電しゃ断器容量

室内ユニット 総合運転電流	スイッチ容量 (A)	ヒューズ容量 (A)	漏電しゃ断器容量 (A)
(室内ユニット総合最大運転電流) x 1.5倍 = 10A 以下	30	15	15
(室内ユニット総合最大運転電流) x 1.5倍 = 15A 以下	30	15	20

\* 室内ユニットの運転電流は、カタログ等を参照してください。

\* 室内ユニットの総合運転電流は、15Aまでとしてください。15Aを超える場合には、別幹線としてください。

\* 漏電しゃ断器は高調波対応品を使用してください。

### ● 室内ユニットが複数台時の室内電源配線

「内線規程」に沿って使用する配線を決定してください。

注) 運転電流は、機種により異なります。(室内ユニットの運転電流は、カタログ等を参照してください。)

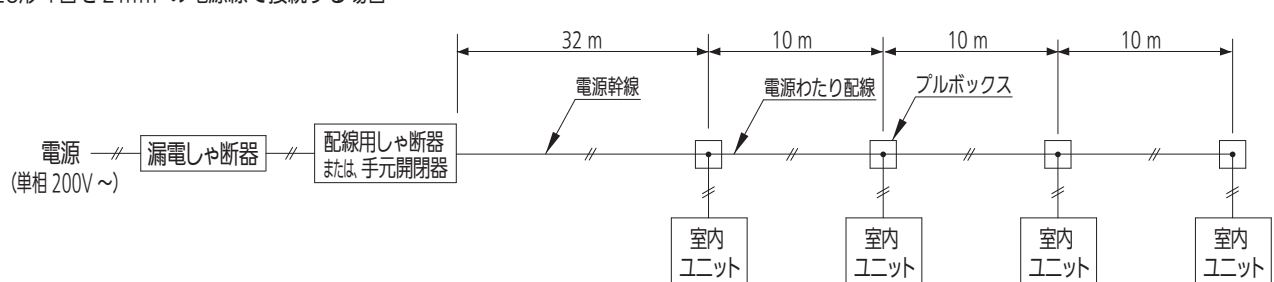
注) 電源幹線とわたり線は同じ太さにしてください。

電線最小太さ (mm<sup>2</sup>) と最大こう長 (m) / (電圧降下基準: 2%)

台数	4方向室内ユニット (複数台)			
	28~80形		90~160形	
	電源幹線	わたり線	電源幹線	わたり線
4台	2mm <sup>2</sup> (32)	2mm <sup>2</sup> (10)	3.5mm <sup>2</sup> (25)	3.5mm <sup>2</sup> (10)
	2mm <sup>2</sup> (25)	2mm <sup>2</sup> (15)	3.5mm <sup>2</sup> (18)	3.5mm <sup>2</sup> (15)
8台	5.5mm <sup>2</sup> (27)	5.5mm <sup>2</sup> (10)	8mm <sup>2</sup> (17)	8mm <sup>2</sup> (10)
	8mm <sup>2</sup> (42)	8mm <sup>2</sup> (15)	14mm <sup>2</sup> (38)	14mm <sup>2</sup> (15)
12台	14mm <sup>2</sup> (55)	14mm <sup>2</sup> (10)	—	—
	14mm <sup>2</sup> (28)	14mm <sup>2</sup> (15)	—	—
16台*	14mm <sup>2</sup> (29)	14mm <sup>2</sup> (10)	—	—

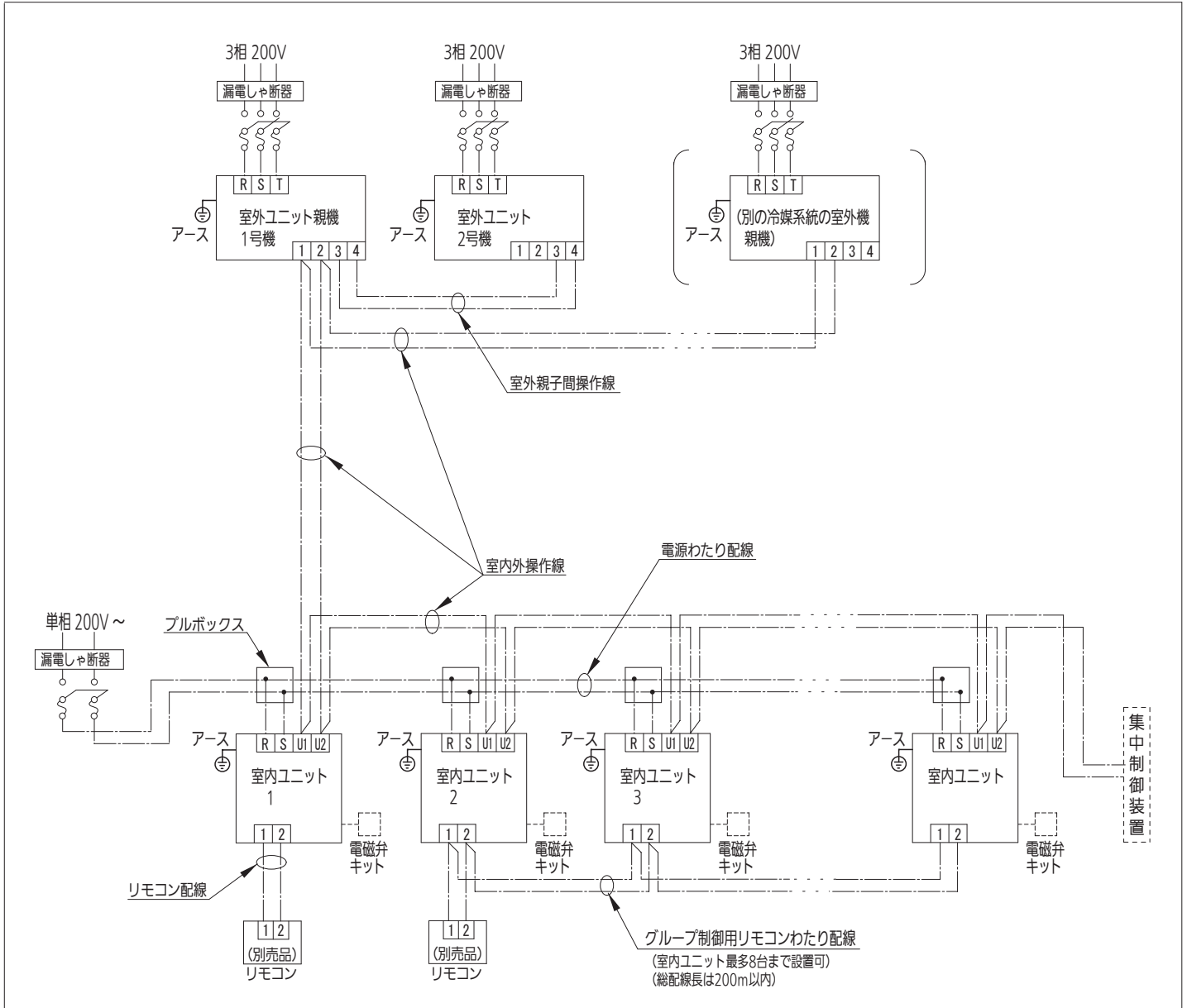
\* 28・36形のみ16台設置可能。

28形4台を2mm<sup>2</sup>の電源線で接続する場合



# 1. 電気配線工事 (つづき)

## ■ 基本配線図

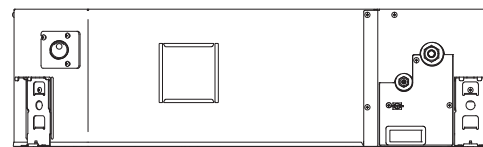


- 注1) 集中制御装置を使用する場合、集中制御装置の信号線は、室内外操作線と同一の通信線になるように配線接続してください。(無極性)  
 注2) 室内・室外ユニットの容量比は、室外ユニットに添付の「据付工事説明書」(または「据付工事担当者のかたへ」)を参照してください。  
 注3) 3WAYマルチの場合は、室内ユニットに電磁弁キット(別売品)を接続してください。

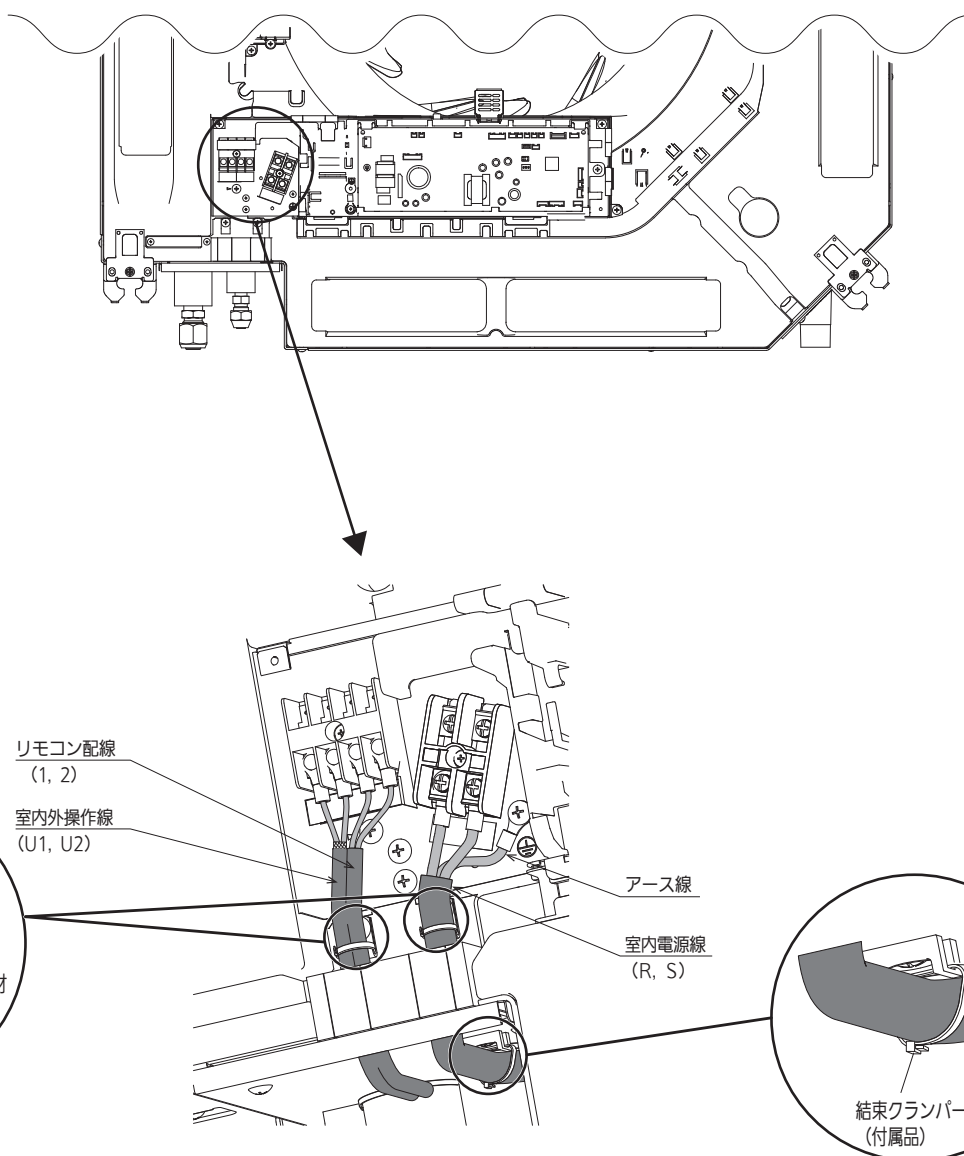
## 2. 配線の接続

### ■ 室内ユニットへの配線接続

1. 配線取入口は、ユニット本体側面の冷媒配管側の下部にあります。  
また、電装ボックスは本体下面吸込口面にあります。
  2. 電装ボックスのふたをはずしてください。（ネジ2か所）
  3. ユニット本体側面の配線取入口から本体内部に各配線を引き込んでください。  
本体電源部の配線取入口を必ず通してください。  
配線取入口を通さないと、天井パネルにはさまれて、発火するおそれがあります。
  4. 電装ボックスの配線取入口を通し、端子板に接続してください。電源線は端子接続部に張力が加わらないように、  
固定用クランプ材に結束クランパー（付属品）を通し、しっかりと固定してください。  
固定は必ず被覆部分で行ってください。
  5. 端子板の端子ネジを締め付けすぎるとネジを損傷するおそれがあります。下記の締付トルクを参照ください。
- |           |               |
|-----------|---------------|
| 端子ネジ締付トルク | 1.0 ~ 1.4 N・m |
|-----------|---------------|
6. 配線をはさまないように電装ボックスのふたを元通りに取り付けてください。
  7. 配線取入口は、すき間がないようにパテ等（現地調達）でふさいでください。

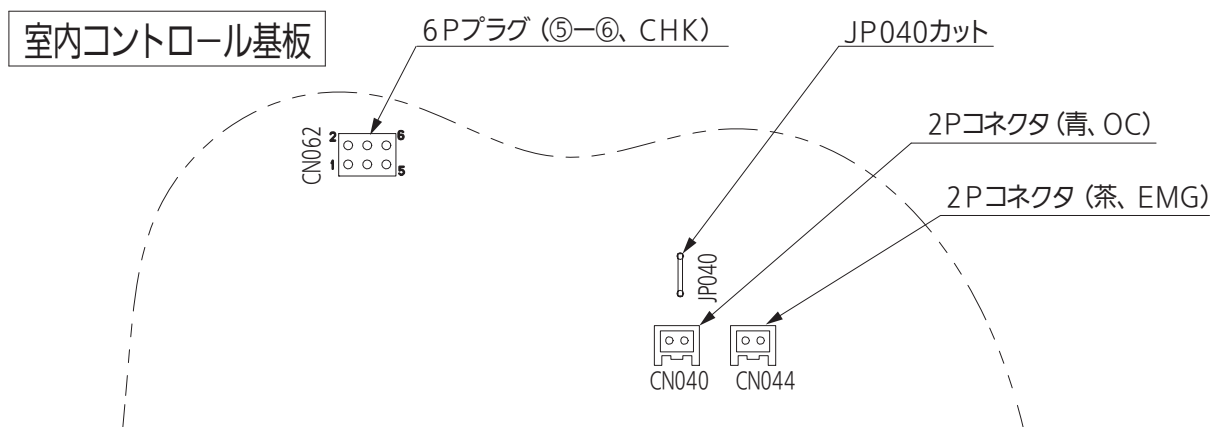


配線取入口



### 3. 試運転の前に

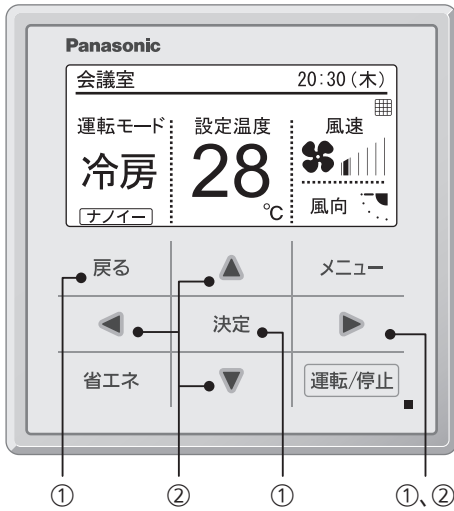
- 据付工事説明書の「**8. 据付工事完了後のチェック項目**」を確認してください。
- 室内外操作線（室内ユニット4P端子板のU1, U2端子）にAC200Vの配線を接続をしていないか確認してください。
- 誤ってAC200Vを印加した場合は室内コントロール基板のヒューズ（0.4A）を溶断して基板を保護するようにしています。配線接続を修正した後、基板に接続されている、2Pコネクタ（青、OC）をはずして、2Pコネクタ（茶、EMG）に差し替えてください。  
茶コネクタに差し替えても運転できない場合には、ジャンパー線（JP040）をカットしてください。  
（作業は必ず運転を停止して漏電しゃ断器を切ってから行ってください。）



- 漏電しゃ断器は、試運転を行う5時間以上前に入れてください。（クランクケースヒーターに通電するため）
- 現地接続配管のリーク検査、真空引き、冷媒チャージ後、室外サービスバルブは全開にしてください。（ただし、室外ユニット単数設置の場合、バランス管は使用しませんので全閉のままにしてください。）
- 高天井設定をする場合、パネルの据付工事説明書を参照し必要な設定を行ってください。
- 別売品を取り付ける場合、別売品の据付工事説明書を参照し必要な設定を行ってください。
- S-UT1シリーズ以外の室内ユニットを組み合わせ（グループ制御）で使用される場合、S-UT1シリーズの室内ユニットが親機となるように親子設定してください。（項目7-1、7-3）

# 4. リモコン試運転設定

## < 4-1 メンテナンス機能画面の表示 (ユニットが運転を停止した状態で行ってください。) >



多機能ワイヤードリモコン  
(CZ-10RT4B)

- ① **戻る** + **決定** + **▶** ボタンを同時に4秒以上押します。  
メンテナンス機能画面が表示されます。
- ② **▼** / **▲** ボタンで選択、**◀** / **▶** ボタンでページが切り替わります。  
必要な機能のページを表示し、選択してください。

メンテナンス機能 20:30(木)	メンテナンス機能 20:30(木)	メンテナンス機能 20:30(木)	メンテナンス機能 20:30(木)
0. エコナビ 1. 室外故障データ表示 2. サービス連絡先登録 3. リモコン設定モード ◀ 選択 ▶ ページ 送り [決定] 確定	4. 試運転設定 5. センサー情報表示 6. サービスチェック表示 7. 簡単設定 ◀ 選択 ▶ ページ 送り [決定] 確定	8. 詳細設定 9. 自動アドレス設定 10. タッチキー感度設定 11. タッチキー感度確認 ◀ 選択 ▶ ページ 送り [決定] 確定	10. タッチキー感度設定 11. タッチキー感度確認 12. ナノイー 13. コントローラー初期化 ◀ 選択 ▶ ページ 送り [決定] 確定

メンテナンス機能画面

## < 4-2 試運転 >

- メンテナンス機能画面を表示してください。
- ▼** / **▲** ボタンで4. 試運転設定を選択し、**決定** ボタンを押してください。
- ▼** / **▲** ボタンで試運転設定：オンを選択し、**決定** ボタンを押してください。
- 戻る** ボタンを押し、リモコンに“試運転”と表示していることを確認してください。
- 運転/停止** ボタンを押すと試運転を開始します。暖房、冷房、送風のいずれかの運転モードで使用してください。
- 試運転を終了後は再度、上記メンテナンス機能 → 4. 試運転設定を選択、試運転設定：オフを選び、**戻る** ボタンを押し、“試運転”が消灯していることを確認してください。  
(連続試運転を防止するため60分後自動で「オフ」になります。)

メンテナンス機能 20:30(木)
4. 試運転設定 5. センサー情報表示 6. サービスチェック表示 7. 簡単設定 ◀ 選択 ▶ ページ 送り [決定] 確定

メンテナンス機能画面

試運転設定 20:30(木)
試運転設定 ▲ オン ▼ ◀ 変更 [決定] 確定

試運転設定画面

## 5. 自己診断機能表

処置後は、電源を入れ直してください。(自動復帰警報ではありません)

多機能ワイヤードリモコン表示	ワイヤレスリモコン表示	原因		処置方法
			親・子リモコン制御の場合	
全く表示されない	全く表示されない	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リモコンが正しく接続されていない。</li> <li>● 室内ユニットの電源が入っていない。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 正しく接続する。</li> <li>● 室内ユニットの電源を入れる。</li> </ul>
“設定中”が消えない(10分程度)	——	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アドレス設定が終了していない。室内接続台数の不一致、他。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 室外基板上的LED1, 2表示(注1)を確認し、配線・室内接続台数をチェックする。</li> </ul>
“E01”表示	運転ランプ点滅	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自動アドレスが終了していない。</li> <li>● 室内外操作線の断線・接続不良。</li> <li>● リモコンが正しく接続されていない。(リモコン受信不良)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● リモコンおよび室内外操作線の配線を確認する。</li> <li>● 自動アドレスを行う。</li> </ul>
“E02”表示		<ul style="list-style-type: none"> <li>● リモコンが正しく接続されていない。(リモコンから室内ユニットへの送信不良)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 正しく接続する。</li> </ul>
“E09”表示	——	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 親リモコンが2台設定されている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● &lt;7-2 親・子リモコン制御&gt;の項を参照して正しく設定する。</li> </ul>
“E04”表示	準備中ランプ点滅	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 室内外操作線または信号線の断線、接続不良。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 正しく接続する。</li> <li>● 基本配線図を参照して正しく接続する。</li> </ul>
“E06”表示				
“E15”表示		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 室内ユニット台数が設定より少ない。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 室内ユニットの台数を正しく設定する。</li> </ul>
“E16”表示		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 室内ユニット台数が設定より多い。</li> </ul>		
“E20”表示	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 室内ユニットからのシリアル信号を全く受信できない。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 室内ユニットに電源が入っているか、室内外操作線は正しいか確認する。</li> </ul>	
“P05”表示	運転ランプ・準備中ランプ交互点滅	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 室外ユニットの3相電源が、逆相または欠相になっている。</li> <li>● ガス欠。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 室外ユニットの3相電源の2相を入れ替えて正しく接続する。</li> </ul>
“L02”表示	運転ランプ・準備中ランプ同時点滅	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 室内・室外ユニット機種の不一致。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 室内・室外ユニットの機種を確認する。</li> </ul>
“L07”表示	——	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 室内ユニットにリモコンわたり配線接続されているが、個別設定になっている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自動アドレス設定を行う。</li> </ul>
“P09”表示	タイマーランプ・準備中ランプ交互点滅	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 室内ユニットの天井パネルのコネクタが正しく接続されていない。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 室内ユニットの天井パネル、コネクタを正しく接続する。</li> </ul>
“P12”表示	——	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 室内ユニットのDC送風機異常。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● ファン固定テープがはずしてあるか確認する。</li> <li>● DC送風機-基板間の配線を確認する。</li> </ul>
⚠ ナノイー	——	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ナノイーの断線。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● ナノイーのコネクタを確認する。</li> </ul>

※上記の処置をしても正常に運転しない場合、または上記リモコン表示以外の表示がでる場合には、販売店に連絡してください。

- エラー発生時の室外基板上的LED1, 2の表示について (※自動アドレス設定中は、室外基板上的LED1, 2が交互点滅します。)

「LED1が4回点滅」⇔「LED2が6回点滅」を繰り返している場合は、「E06警報」を表します。

(LED1の点滅回数は警報の種類(2:P/3:H/4:E/5:F/6:L)、LED2の点滅回数はエラー番号を意味します。)

注1) アドレス設定中にエラーが発生した場合は、上の表示はされず、次のような表示になります。

- ・「E15警報」: LED 1, 2 が同時点滅 (0.25秒ON / 0.75秒OFF)
- ・「E20警報」: LED 1, 2 が同時点滅 (0.75秒ON / 0.25秒OFF)
- ・その他の警報: LED 1, 2 が同時点滅 (0.5秒ON / 0.5秒OFF)

## 6. アドレス設定

### < 6-1 アドレススイッチの設定および室外ユニットからの自動アドレス設定方法 >

室外ユニットの各「据付工事説明書」を参照してください。

### < 6-2 多機能ワイヤードリモコンからの自動アドレス設定方法 冷媒系統ごとに個別選択して自動アドレスを行う場合 >

- ・ / ボタンで9. 自動アドレス設定を選択し、 ボタンを押してください。自動アドレス設定画面が表示されます。
- ・ / ボタンで項目コード/系統No.の選択を切り替えてください。
- ・ / ボタンで項目コード：A1/系統No.：系統番号を選択し、 ボタンを押してください。自動アドレス設定が開始されます。（リモコンに“設定中”と表示します。）“設定中”が消灯したら設定完了です。別の系統を設定する場合は、「メンテナンス機能画面の表示」から行ってください。
- ・ 設定を中断する場合は、 ボタンを押してください。

自動アドレス設定		20:30(木)
項目コード	系統No.	
▲ A1 ▼	1	
◆ 項目コード変更 ▶ 次へ		

自動アドレス設定画面

## 7. その他の設定方法

### < 7-1 室内ユニットのユニットNo.の表示と親子設定の確認 >

- ・ 複数台設置される場合、個々の室内・室外ユニットの組み合わせが確認しやすいよう、室内・室外ユニットの対応番号を室外コントロール基板の系統アドレス番号と対応させ、油性マジック等の消えにくいもので、室内ユニットの確認しやすい場所（室内ユニットのネームプレートの近辺など）に表示してください。

（例）1-1（室外ユニット系統：1－室内ユニット番号：1）、1-2・・・、2-1、2-2・・・

※メンテナンス時に必要となります。必ず表示するようにしてください。

（リモコンでのユニットNo.確認方法）

- ・ メンテナンス機能画面を表示してください。
- ・ / ボタンで8. 詳細設定を選択し、 ボタンを押してください。詳細設定画面が表示されます。
- ・ / ボタンでユニットNo./項目コード/設定データの選択を切り替えてください。
- ・ / ボタンで項目コード：14としてください。
- ・ / ボタンでユニットNo.を選択すると、選択されたユニットNo.の室内ユニットのファンが運転します。リモコンに表示されたユニットNo.（下図では3-1）をファンが運転した室内ユニットの確認しやすい場所に記入してください。

※S-UT1シリーズ以外の室内ユニットを組み合わせ（グループ制御）で使用されている場合、ファンが運転しているユニットNo.の室内ユニットがS-UT1シリーズ以外のときは設定データが0002（子機設定）になっていることを確認してください。設定データ0001（親機設定）になっているときは<項目7-3>を参照して設定データを変更してください。

- ・ 全ての室内ユニットのユニットNo.記入が完了しましたら ボタンを押して、再起動“はい”を選択し ボタンを押してください。

メンテナンス機能	20:30(木)
8. 詳細設定	
9. 自動アドレス設定	
10. タッチキー感度設定	
11. タッチキー感度確認	
◆ 選択 ◀▶ ページ送り [決定] 確定	

メンテナンス機能画面

詳細設定			20:30(木)
ユニットNo.	項目コード	設定データ	
▲ 3-1 ▼	14	0001	
◆ ユニットNo.変更 ▶ 次へ			

詳細設定		20:30(木)
詳細設定を終了し再起動します。よろしいですか？		
はい ▶	いいえ	

詳細設定画面

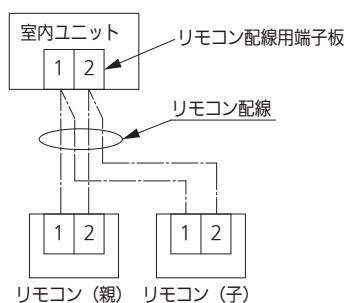
## 7. その他の設定方法 (つづき)

### < 7-2 親・子リモコン制御 (複数のリモコンを設置する場合) >

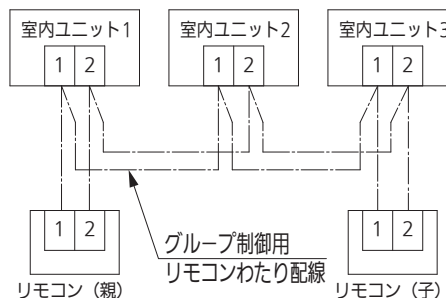
1台もしくは複数台の室内ユニットを複数のリモコン (最多2個まで) で操作することができます。  
(その中のひとつは、子リモコンに設定してください。)

※詳細は、リモコンの据付(電気)工事説明書を参照してください。

室内ユニット1台を  
リモコン2個接続して  
操作する場合

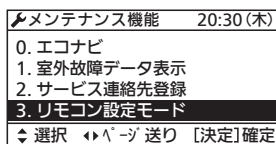


グループ制御をリモコン2個接続して操作する場合



#### (多機能ワイヤードリモコンの子リモコンへの設定方法)

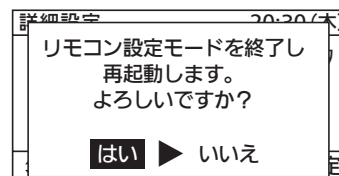
- ・メンテナンス機能画面を表示してください。
- ・**▼** / **▲** ボタンで3. リモコン設定モードを選択し、**決定** ボタンを押してください。リモコン設定モード画面が表示されます。
- ・**◀** / **▶** ボタンで項目コード/設定データの選択を切り替えてください。
- ・**▼** / **▲** ボタンで項目コード：0 1 / 0001 (親) から設定データ0000 (子) を選択し、**決定** ボタンを押してください。
- ・**戻る** ボタンを押し、再起動：“はい” を選択し、**決定** ボタンを押してください。



メンテナンス機能画面



リモコン設定モード画面



### < 7-3 室内ユニットの親子設定変更方法 >

< 7-1 室内・室外ユニットのユニットNo.の表示と親子設定の確認 > を実施中に、S-UT1シリーズ以外の室内ユニットで設定データ：0001 (親機設定) となっている場合、次の手順で設定データを変更してください。

- ・**◀** / **▶** ボタンで設定データを選択し、**▼** / **▲** ボタンで設定データを0002 (子機設定) に変更し **決定** ボタンを押してください。
- ・**▼** / **▲** ボタンでユニットNo.を変更し、S-UT1シリーズ室内ユニットのユニットNo.を選択してください。
- ・**◀** / **▶** ボタンで設定データを選択し、**▼** / **▲** ボタンで設定データを0001に変更し **決定** ボタンを押してください。設定データを0001に設定するのは、グループ内でS-UT1シリーズの任意の1台としてください。  
※設定データ：グループ内で0001となっているユニットNo.が複数あると、試運転でエラーコード“E14”が表示します。

※設定データの値を変更しても、室内・室外ユニットの組み合わせとユニットNo.の対応は変わりません。

- ・全ての室内ユニットのユニットNo.記入が完了しましたら **戻る** ボタンを押して、再起動“はい”を選択し **決定** ボタンを押してください。

## 7. その他の設定方法 (つづき)

### < 7-4 多機能ワイヤードリモコンでのファン風速設定方法 > ※ユニットが停止中に行ってください。

- **▼** / **▲** ボタンで8. 詳細設定を選択し、**決定** ボタンを押してください。詳細設定画面が表示されます。
- **◀** / **▶** ボタンでユニットNo./項目コード/設定データの選択を切り替えてください。
- **▼** / **▲** ボタンでユニットNo. : 設定するユニット/項目コード : 5D/設定データ (右表) を選択し、**決定** ボタンを押してください。続けて別の系統を設定する場合はユニットNo. を変更し、**決定** ボタンを押してください。
- **戻る** ボタンを押して、再起動 : “はい” を選択し、**決定** ボタンを押してください。

詳細設定		20:30 (木)
ユニットNo.	項目コード	設定データ
<b>3-1</b>	5D	0001
◆ ユニットNo.変更		▶ 次へ

詳細設定画面

・天井高さ (m) の目安 (天井パネル、4方向吹出し時)

機種	設定コード	通常 (出荷時)	高天井 設定1	高天井 設定2
		0000	0001	0003
28~56形	2.7	3.2	3.5	
71~80形	3.0	3.3	3.6	
90~160形	3.6	4.3	5.0	

## 8. ワイヤードリモコン CZ-10RT3/10RT3A で設定する場合

### < 8-1 リモコン試運転設定 >

- リモコンの **点検** ボタンを4秒以上押してから、**運転/停止** ボタンを押してください。試運転中は液晶表示部に“試運転”と表示されます。試運転モードでは、温度調節はできません。(機器に無理がかかりますので試運転時以外は使用しないでください。)
- 試運転は暖房、冷房のいずれかの運転モードでご使用ください。  
(注) 電源投入後および運転停止後、約3分間は室外ユニットの運転はしません。
- 正常に運転できない場合には、リモコン液晶表示部にエラーコードが表示されます。  
<「据付工事説明書」の4. 自己診断機能表と処理方法>を参照して修正してください。
- 試運転終了後は再度 **点検** ボタンを押して液晶表示部の“試運転”消灯を確認してください。  
(連続試運転を防止するため60分後自動で試運転解除となります。)

### < 8-2 リモコンからの自動アドレス設定方法 > 冷媒系統ごとに個別選択して自動アドレスを行う場合

(冷媒系統ごとのアドレス設定方法)

- リモコンのタイマー時間 **▲** + **点検** ボタンを同時に (4秒以上) 押します。
- 温度設定 **▲** / **▼** ボタンどちらかを押してください。(項目コード“ A 1 ”表示 : 系統別自動アドレス)
- 自動アドレスしたい系統 (室外ユニット) の系統番号を **ユニット選択** ボタンで選びます。
- **セット** ボタンを押すと、その冷媒系統の自動アドレスを行います。自動アドレス中は、リモコンに“設定中”と点滅表示します。(自動アドレスが終わると通常の停止に戻ります。)
- 次の系統も同様にアドレス設定してください。

## 8. ワイヤードリモコン CZ-10RT3/10RT3A で設定する場合(つづき)

### < 8-3 室内ユニットのユニットNo.の表示と確認(番号記入のお願い) (自動アドレス完了後) >

- ・複数台設置される場合、個々の室内・室外ユニットの組み合わせが確認しやすいよう、室内・室外ユニットの対応番号を室外コントロール基板の系統アドレス番号と対応させ、油性マジック等の消えにくいもので、室内ユニットの確認しやすい場所(室内ユニットのネームプレートの近辺など)に表示してください。

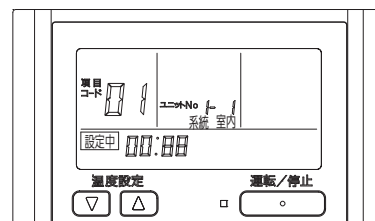
(例) 1-1(室外ユニット系統: 1-室内ユニット番号: 1)、1-2・・・、2-1、2-2・・・

※メンテナンス時に必要となります。必ず表示するようにしてください。

#### (リモコンでのユニットNo.確認方法)

- ・ **点検** ボタン+ **換気** ボタンを4秒以上押し(簡単設定モード)
- ・ **ユニット選択** ボタンで室内アドレスを指定します。  
(ボタンを押すごとに1-1、1-2・・・2-1、2-2・・・と表示し、  
選択された室内ユニットのみ、室内ファンが運転します。)
- ・再度、 **点検** ボタンを押すと通常モードに戻ります。

#### ワイヤードリモコンの場合

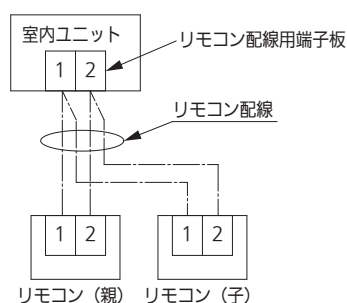


### < 8-4 親・子リモコン制御 (複数のリモコンを設置する場合) >

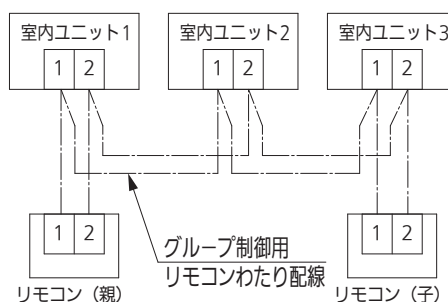
1台もしくは複数台の室内ユニットを複数のリモコン(最多2個まで)で操作することができます。  
(その中のひとつは、子リモコンに設定してください。)

※詳細は、リモコンの据付(電気)工事説明書を参照してください。

室内ユニット1台を  
リモコン2個接続して  
操作する場合



グループ制御をリモコン2個接続して操作する場合



#### (ワイヤードリモコンの子リモコンへの設定方法)

- ・ **セット** + **運転切換** ボタンを同時に4秒以上押します。
- ・温度設定 **▼** / **▲** ボタンで項目コード“01”を指定します。
- ・時間 **▼** / **▲** ボタンで設定データを“0001”(親)から“0000”(子)に変更します。
- ・ **セット** ボタンを押します。(表示が点滅から点灯に変わればOK)
- ・ **点検** ボタンを押します。

### < 8-5 ワイヤードリモコンでのファン風速設定方法 > ※ユニットが停止中に行ってください。

- ・リモコンの **点検** + **セット** + **取消** ボタンを同時に(4秒以上)押します。
- ・ **ユニット選択** ボタンを押すごとに室内ユニットが選択されます。  
(この時、選択しているユニットのファンが回転します。)
- ・温度設定 **▲** / **▼** ボタンを押して、項目コード“5d”を選択します。
- ・時間 **▲** / **▼** ボタンを押して、下表より正しい設定コードを選択してください。
- ・ **セット** ボタンを押します。(表示が点滅から点灯に変わればOK)
- ・ **点検** ボタンを押します。通常の状態に戻ります。

・天井高さ(m)の目安(天井/パネル、4方向吹出し時)

機種	通常 (出荷時)	高天井 設定1	高天井 設定2
設定コード	0000	0001	0003
28~56形	2.7	3.2	3.5
71~80形	3.0	3.3	3.6
90~160形	3.6	4.3	5.0